

# 理工学府の進展と学生の研究環境整備

副研究院長（教育担当） 大山 力

2018年4月に理工学府が設置されてから1年あまりが経過しました。理工学府としての最初の修了生が出るまでと少しです。この間、文部科学省による設置後の状況の審査にも順調に対応してきています。例えば、多くの大学が博士課程後期学生の定員充足に苦勞している中、発足当初の2018年度入試では博士課程前期、後期とも定員を充足しました。2019年度入試では残念ながらまだ定員が充足していませんが、10月入学生が増加することを期待しています。

理工学府の進展に合わせて、研究中心の大学・大学院とすべく、学部学生、博士課程前期学生で論文の著者となった学生に対する論文顕彰制度を設けました。その結果、博士課程前期学生の論文数が2017年度の48本から2018年度は114本と大幅に増加しました。論文顕彰制度については効果を検証して、さらなる学生の研究力向上につなげていきたいと考えています。また、学生が安心して研究に打ち込める環境を作るために、「見守り教員制度」を2019年度から発足させました。この制度は従来の主指導教員以外にも相談できる教員を作ろうというものです。主指導教員が出張で不在の際や主指導教員以外に相談したいことがある場合に活用されることを期待しています。論文顕彰制度と見守り教員制度を両輪として、学生の研究力を向上させ、研究力の高い大学・大学院を目指して参ります。

その他にも、大学院ダブルディグリーに関する世界的なコンソーシアムであるT.I.M.E.に加盟し、国際的な連携体制の強化を図りました。下表に示すように、オストラバ大学、パドヴァ大学、上海交通大学などとダブルディグリー協定を既に締結しており、2018年10月からは博士課程前期学生1名がダブルディグリープログラムでパドヴァ大学に入学し、勉学に励んでおります。工学研究院では、今後もグローバル教育基盤をより一層拡充してまいります。また、早稲田大学が主体となって進めている卓越大学院（パワー・エネルギー・プロフェッショナル育成プログラム）に連携大学として加わり、博士課程後期進学を前提とした博士課程前期学生が4名（第1期1名、第2期3名）参加しました。

学部の教育に関してもニュースがありました。若い学部生に研究活動に参加していただくという教育の取り組みROUTE (Research Opportunities for Undergraduates) は従来からユニークな取り組みとして注目されてきましたが、この度クラウドファンディングによる資金集めの取り組みを行いました。その結果、趣旨に賛同する方から大型の寄付をいただくことができました。いただいた寄付を有効に活用し、理工学部で行っていたROUTEを全学展開させること、大学院生の研究活動にシームレスにつなげることなどが期待されています。

表 理工学府のダブルディグリー協定締結校

中国	上海交通大学大学院
韓国	昌原大学校工科大学
ブラジル	サンパウロ大学工科大学校
イタリア	パドヴァ大学土木建築環境工学部、情報工学部、産業工学部、経営・工学部
チェコ	オストラバ工科大学金属・材料工学専攻